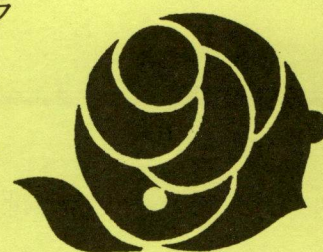


Rosa Prunella

ローザ・プルムラ

●茨城大学・大学教育研究開発センター



ニュースレター №.2

大学教育研究開発センター（以下「センター」）のニュースレター「ローザ・プルムラ」第2号では、教養科目の授業を受講している学生諸君の協力の基に実施した、《教養教育に関する基本調査（Ⅰ）》の結果のうち、学生、教職員の皆さんに早く知らせる必要があると思われる部分を掲載いたしました。学生諸君からなかなか手厳しい意見や批判が寄せられ、「センター」としては「襟を正して」来年度の課題に向かうべく検討を開始しております。なお、12月には後学期の調査を実施いたしますので、学生、教職員の皆様の御協力を再度お願いいたします。

（吉田）

「後学期が始まるよ！」

教養科目に親しむ法

夏の間はポプラの葉音も聞こえる程閑散としていたキャンパスに、いつものにぎやかさが戻った。前学期の試験期間を文字どおり脂汗を流し、掌に汗を握って過ごした諸君には、「読書の秋」・「灯火親しむ候」が待ち遠しかったに違いない。しかし、短い秋を有意義に過ごすにはそれなりの心構えが必要だ。

そこで、前学期の教養の授業に馴染めなかった諸君には、この際、授業をちょっと見直すことをお勧めしたい。一口に教養科目といっても、その内容や目的が異なっているばかりでなく、授業のやりかたも教官によりまちまちなのはご承知のとおり。そこで、受講する諸君もその特徴をつかんで履修することが肝要となる。

外国語科目では、予習・復習・反復練習が大切で、教科書の内容を暗記するくらいの努力が必要だ。他方、高校までは「暗記科目」だった人文・社会の科目では、細かい事柄を憶えるよりも、講義からヒントを得て、関連の書物をたくさん読むことが大切になる。

皆が同じことを憶えなければならない授業もあれば、同じ授業でも聞き手によって様々な受け取り方を期待する授業もある。それぞれの授業の形態や目的にあった履修方法・受講スタイルを工夫してみることを期待したい。

（朝 野）

キャンパス情報

人文学部から

長い夏休みが終わって、再び、楽しい(?)講義が始まります。

社会科学科では、後学期に1年次生向け主題別ゼミナールが開講されます。まだ、どのゼミナールを受講するか決まっていない諸君は、第1回目のゼミナールに出席して、担当教官から受講許可を受けて下さい。なお、どのゼミナールに何名の定員の空きがあるかは、人文学部の掲示板で確認して下さい。

人文学科では、11月に、2年次以降の専攻コース

所属決定へ向けた説明会を予定しています。どの分野への所属を希望するかよく考えるとともに、掲示に注意して下さい。

コミュニケーション学科では、来年度のカナダでの英語研修(夏期を予定)についての説明会を予定しています。詳しいことは10月中に発表致しますので掲示に注意して下さい(共に人文学部掲示板です。)

なお、人文学部3学科とも若干名の転部・転学科を認めます。転部・転学科試験については人文学部学務係に問い合わせして下さい。

(有 泉)

教育学部から

授業から開放されて、それぞれ充実した夏季休業期間を過ごせたでしょうか。授業から離れてまさに夏休みだったのは今年だけなのです。2年生・3年生は集中講義や3泊4日の大子合宿研修所での〇〇実習などに参加したはずです。4年生は教員採用試験・就職試験に苦労したり、進学での勉強に精を出しました。9月は教育実習の期間で、多くの3年生は第1回目、4年生は第2回目の、緊張し疲れたが実り多い実習を終えたところです。また、4年生にとっては(春からの就職活動・採用試験勉強で遅れていた)卒業研究に汗を流した期間でした。

各教室や図書館などの学内探索はすでに済んだと思いますが、教育学部A棟、B棟、C棟、D棟の各研究室の探訪は済みましたか。研究室での卒業研究はこれから佳境に入ります。熱心な4年生の状況を見たり、可能なら説明してもらいなさい。ドアを開放していて、諸君たちを拒まない研究室も多いはずです。埃を避けるため脱靴としていたり、静かにゼミや大学院の授業が行われたりしています。迷惑がかからないように充分気を配りながらの、研究室探訪をお勧めします。1年生の早い時期から諸君たちの新たな活動場所が見つかるでしょう。

(山 本)

理学部から

2ヵ月に亘る夏休み、様々な出会いや経験があったことと思います。しかしそれはそれとして、そろそろ頭の切り換え時、後学期への積極的な取り組みをお願いしておきます。

いまさらですが、水戸キャンパス北西部の建物郡が

理学部です。一番奥のA棟は恐らく茨城大学でも最も古いもので、その貧弱・老朽ぶりに驚いた方もいるでしょう。でもこの間の改革により手狭になったこともあり、後ろ半分の建物については建て替えが検討されています。皆さんが卒業する頃には、真新しい高層建物になっているかもしれません。

前学期に理学部教室での授業を履修されている方はご存じでしょうが、理学部建物は全て脱靴となっています。主として研究上の都合によるものですが、改めてご協力をお願い致します。10月1日からはもう一つ規制が加わります。教室に加え、廊下、建物間の通路なども終日禁煙となります。どうしてもという方は、外で吸うことになりますので、携帯灰皿などを用意して下さい。個人的には禁煙をお勧めしたいところです。

前学期の分野別科目・自然、及び理学部の方の全般的な履修状況は、概ね私達が助言・お願いしたものに近く、一安心しています。分野別科目・自然の履修にあたって、受講調整の結果希望のクラスとならなかった方には、お詫び致します。こうしたことを少しでも減らすべく、自然の後学期科目として、『地球科学』、『現代の科学』各一本を増設することにしています。

(川 田)

Bコースを知っていますか？

茨城大学工学部のシステム工学科には、夜間に授業をおこなうBコースが用意されています。授業時間は、午後5:30から午後8:40まで。実験の場合には、9:00を過ぎることも多いようです。日立キャンパスでは、このBコースの授業時間に合わせて、事務部はもちろん図書館や生協も、夜遅くまで業務を行っています。工学部では、実験などが夜間にずれ込むことは日常的ですから、Bコース以外の学生にとっても夜間営業は好都合です。

Bコースでは、社会人選抜や推薦入学を積極的に実施しており、様々な経験を積んだ学生が集まっていま

す。狭くなりがちな社会に対する視野を広げられるという意味で、Bコースの授業は教官にとっても刺激的です。しかし様々な教育的背景を持つ学生全員に知的な満足感を与えるという作業は極めて難しく、教官の力量が問われていると感じることもしばしばです。また昼間のコースと比較して授業科目の絶対数が少ないことも、学生諸君のフラストレーションの一因になっているようです。Bコースの充実につながる意見はいつでも歓迎です。システム新棟3階まで、皆さんの声を聞かせにきてください。

(乾)

阿見キャンパスから

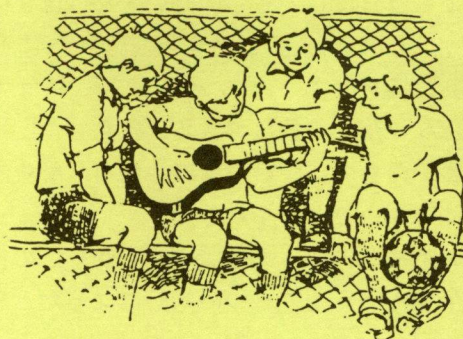
皆さん、夏休みはいかがでしたか。リフレッシュされたでしょうか。さて、成績は受け取られましたか。阿見キャンパスに移ってから、水戸に通うのは大変です。問題ありの人は、後学期にがんばって下さい。

今回は阿見の住宅事情についてお知らせします。阿見キャンパスでは多くの学生は大学周辺にあるアパートを借りています。やはり実験、実習あるいは卒業論文に忙しいからでしょうか。農学部の際には県立医療大学もあり、新築のアパートが多いようです。すでにアパートを捜されている方もいると思いますが、ほとんどの学生は不動産屋さん（大学周辺に数軒あります）に申し込むかあるいは先輩の紹介による方法でアパートを捜します。秋になると来年の契約更新の打診があります。更新がない部屋について、不動産屋さんから

順次申し込みのあった学生に連絡がいきます。バス・トイレ付きで4～5万円、捜せば3万円台のアパートもあります。学生寮入寮募集については来年1月頃に掲示されますので、掲示板を見るようにして下さい。何かありましたら、農学部学生係にお尋ね下さい。

鍬耕祭で、皆さんに会えることを楽しみにしています。

(白 井)



私ののめり込んだ授業

伊藤有輝（工学部，1年）

前学期の授業が終わり、振り返ってみて私がのめり込んだ授業は、独語Ⅰ（Ⅱ）です。四カ月前に入学し、すべて自分の意志によって授業日程を作り、そして、自分の作った授業日程で授業を受けるようになり、私は未修外国語として受講した独語に興味を持ちました。今までに学習したことがなかったという理由もありますが、私がこの独語にのめり込んだ一番の理由はやはり新しい事柄を次々と学習し、それによって理解できないことが数多く出てきて行止まることがあるが、そこで、ぐっと投げ出すことをこらえ、それによって新しい発見と共に、理解することができるといったような、一種の賭け引きのようなものを感じることに、私は興味を持ちました。しかし、前学期の試験が終わってみると、決して結果は良かったわけではありませんでした。私は、この新めて学習した独語というものの難しさを知りました。今、学習しているのはつまり単位をとることのために学習しているといっても過言ではないと思います。そのために、学習のスピードも早くなり、ほんの一部しか学習できないのではないかと私は思います。私は、そういう学習のやり方ではなく、もっともっと独語の奥深くまで学習し、そして、本当の独語のおもしろさを知りたいと思います。

今村有希（理学部，1年）

私ののめり込んだ授業は『宗教と人間』である。まず野口先生が聖書の一節から重要な言葉を言う。例えば「何事でも自分にしてもらいたいことはほかの人にもそのようにしなさい。」とか「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」などである。私はキリスト教徒ではないが、これらの言葉に感動した。

次に聖書そのものについて講義される。歴史的な背景など、興味深いことが多かった。

私はどの宗教も信じる気はない。しかしこの授業はこれから生きてくうえで一つの指針になったと思う。

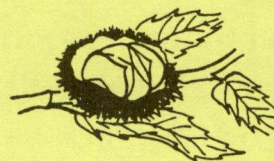
帯金靖彦（工学部，1年）

私の1年前学期の授業を受けた感想は、「どれもつまらない」でした。でも、その中で興味を持つことができた授業が1つだけあります。それは『近代の名作』という講義でした。

この講義では何作かの近代の小説を取り上げ、その作品中の主人公の行動やそのときの心情、著者がその作品を書き上げるまでの経緯や、著者自身の生涯までをも解剖し、その突っ込んだ解説や説明を聞くだけという、ただ単位が欲しいだけの学生にはうってつけの講義だったと思う。しかしそれは、私にとってはもっと意義のあるものでした。

高校までの小説などの解説では、どうしても受験中心の解説で、「しかし」が出てくるとそれは逆説だから大事だとか、この動詞は五段活用の未然形だとか、その作品を読む上では全く無意味で、しかもちっとも面白くない解説でした。だけど先に述べた講義では著者の事や、その当時の恋愛観などの時代背景等も説明されるので、現代にはない近代の常識なども文章から読み取れ、臨場感を持ちながら、本当の意味での読書ができたと思います。

人間は読書や映画、TVドラマなどに大変興味を持っている。というのも、それらは読者や視聴者に疑似体験を与え、人々に様々な人生を楽しませる。この疑似体験こそが素晴らしいとは決して言えないけれど、疑似体験を自分の人生に還元し、素晴らしいものへと改善していくことはいくらでもできる。そして、それを私に教えてくれたのが『近代の名作』だったのです。



伊藤優一郎（工学部，1年）

大学に入学してから4ヶ月が過ぎました。前学期の授業を終えての感想は、やはり大学の授業は高校や中学の時の授業とは明らかに異なる、ということです。教科書1つとってみても、各ページに含まれている内容の奥深さや量にはものすごいものがあり、世間で言われるほど大学生は楽ではないと感じました。

さて、私に最も強い印象を与えた授業はといいますと、それは梁継国先生の中国語です。梁先生は非常にきれいな日本語を話しますので、私がまだ入学して間もない頃は、先生はてっきり日本人であると思っていました。中学、高校を英語嫌いで過ごした私は、いつの間にか語学全般に大きな偏見をもっていました。それを取り除いてくれたのが梁先生の中国語でした。先生は、優しく丁寧に教えてくれますし、日本人はおそらく知らないと思われるような中国の文化などについても教えてくれます。だから、その話を聞いて中国に1度は行ってみたいと思うようになり、そしてこのことが、学生の学習意欲をかき立てるのだと思います。後学期から、また先生の授業が始まりますが、もっと勉強して私も中国語を話せるようになりたいです。

氏家 享（理学部，1年）

1つの科目にとらわれない勉強をしたいと思ってここ茨城大学・理学部・地球生命環境科学科に入学した自分にとって、総合科目というのは実にありがたい授業でした。その中でも特に、科学技術文明論の『自然と人間』は自分の欲求を満たしてくれるものでした。この授業は、前学期をさらに3つに分けて、3人の先生方が自然という1つのテーマを倫理・地質学・植物学という全く異なる方向から解説していくという形式で進められました。そのため勉強はとて大変なのですが、先生方がプリントやOHPを使って分かりやすく、しかも具体的に説明して下さったため最後まで楽しく授業に臨むことができました。ただ、あの受講者数についてだけは不満があります。もっと少ない人数で、もっと小さな教室で行ってもらえたら、もっとコミュニケーションをとることができ、それによってさらに理解度や楽しさが増したのではないのでしょうか。まあ、まだ始まったばかりの科目なのでこのへんはしょうがないのかもしれませんが、次期からはこの点についてもぜひ考慮していただければと思います。

V o i c e

「前期は終わったが」

岩澤紀生（理学部，1年）

前期の授業を受講して興味を持てたのは教養科目の人文・社会の分野だった。これは今まで経験がなかったことであり、これまでは受動的で疑問は持てるものの結局ひとつの答えに導いていくという授業に慣れすぎていたのかもしれない。受講して自ら積極的に考えて、自分の意見を持ち、時には批判も出来たりすることがとても新鮮で、ものの見方が変わってしまうようなこともしばしばだった。そしてもう1つ。入学時に理学部の授業の説明で強調されていた周辺領域の導入ということについて、少し感じたことがある。もちろんその基本的な意味については賛成で、現在の多様な社会の中である部分と部分の間に強い区切りを設けて、

ひとつの孤立した分野をつくることは不可能で、まわりを見れない危険な考えを生むことすらあり、だからいろいろな分野とのかかわりの中で広い視点からあることを見る目というのは大切なことだと思う。しかし今専門の授業を受けてみて、何か物足りなさを感じてしまうことがしばしばあった。というのも分野が広いだけに、目的をはっきりさせることが難しく、自分がやりたいことを見つけられずに迷子になったようだったからで、意欲がわかなかった。とても複雑なところだが、これだけは言えると思うことがある。それはいつも主体性を持って授業に望むことを心掛けるようにすべきだということである。主体的に考え、いろいろな疑問を持ち、ひとつひとつ解決していくことで、自分の中に多くの判断のモノサシを作り、より広い視野でものごとを見ることができるようになると思う。

掲 示 板 コ ー ナ ー

企 画 室 だ よ り

【1】 忘れ物について

最近時計の忘れ物が多いですね、特に試験期間中の忘れ物です。試験をしている時に時計をはずし机の上に置いた時計。サア-試験が終わった、早く帰ろうとするあまり机の上に置かれた時計はそのまま。

教養教育第二係に忘れ物として届けられた時計は持ち主がないまま時を刻み続けています。

“心当たりの学生は、時計に会いに来てください”

【2】 学生証の再発行について

学生証については、入学時のガイダンスで4年間使用するものなので大切に使用するように説明をしたのですが再発行の手続きに来る学生が定期試験時になると多くなります。

学生証は、学生の身分を証明するものです、学校に来る時、外出する時は必ず携帯すること。また試験時には必要となりますので大切に保管して下さい。

“再発行する場合には、1カ月かかります。”

【3】 平成8年度大学祭日程

茨 苑 祭 … 水戸キャンパス

11月22日(金)～24日(日) 3日間

※22日(金)は、1日休講

こうがく祭 … 日立キャンパス

日程は未定です

鋤 耕 祭 … 阿見キャンパス

10月25日(金)～27日(日) 3日間

※農学部1年次生は、25日に農学部の見学を実施しますので全員参加して下さい。

「講堂前よりバスが出ます。詳細については、掲示をしますので注意して下さい。」

教養教育授業に関する シンポジウムの開催案内

本年4月から、本大学では教官の「全学出動方式」によって新しい教養教育が始まりました。教養教育を実り多いものにしていくため、教養科目の授業の質と量を向上させる努力を継続する必要があります。そこでその一環として大学教育開発センターでは、「教養科目の授業に関するシンポジウム」を開催することになりました。本年度は、招待講演と外国語科目及び総合科目の授業内容や教育方法についてシンポジウムを企画しました。

教職員の皆さん及び学生の皆さんの積極的な参加をお願いします。

開 催 日：11月27日(水)

時 間：10時30分～17時35分

場 所：茨苑会館2F

(7, 8, 9集会室) 水戸キャンパス

内 容：・茨城大学教養教育についてのあらまし

・外国語科目の教育について

未修外国語

英語

・大学教育に関する招待講演

・総合科目の教育について

・教養教育の授業に関する調査について

なお、終了後、懇談会をする予定です。

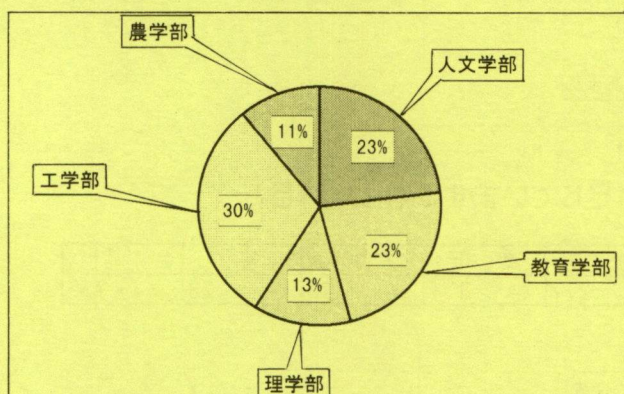


教養教育に関する基本調査（Ⅰ）集計速報

平成8年7月10日（水）第2講時に1,892人の受講生を対象に実施いたしました上記調査については、755枚（39.9％）の回答が得られました。現在集計を進めておりますが、本ニュースレターで特徴的な結果についてのみお知らせいたします。

設問：所属学部

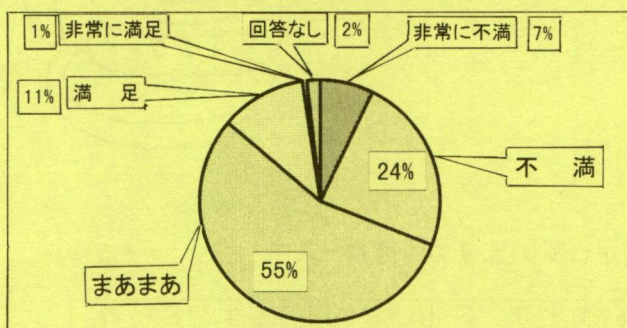
	人文学部	教育学部	理学部	工学部	農学部	合 計
回答数	174	171	100	228	82	755



全学部の学生より協力が得られ協力者の95％は1年次生で、男女比は55％：44％でした。

設問：教養科目の全体について満足していますか

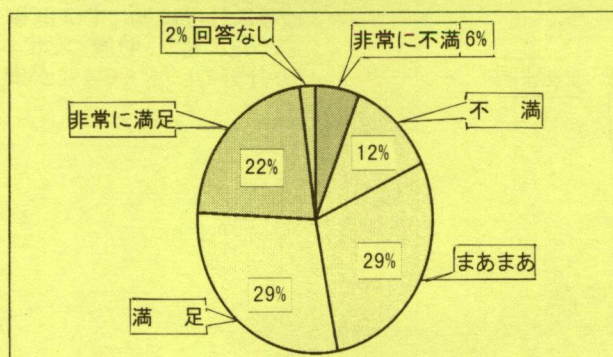
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	53	181	417	85	5	14	755



平成8年度前学期の教養科目については55％の学生が「まあまあ」と判断している一方で、約3分の1の学生は不満感を持っていることがわかりました。

設問：教養科目のクラス分けについて満足していますか（英語）

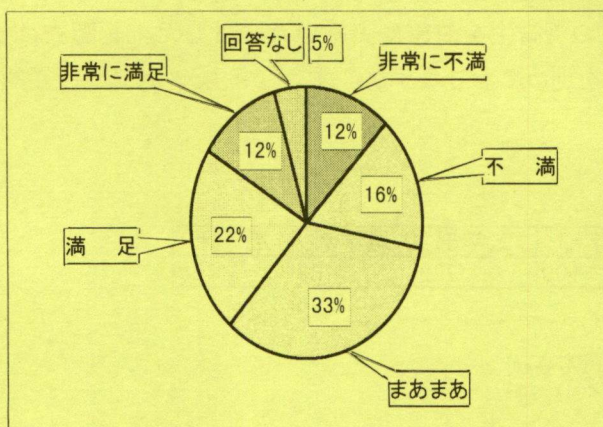
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	46	90	218	220	164	17	755



教養科目のクラス分けに関しては過半数が満足している反面、約5分の1の学生は不満感を持っており、改善すべき課題もあります。

設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(自然の分野)

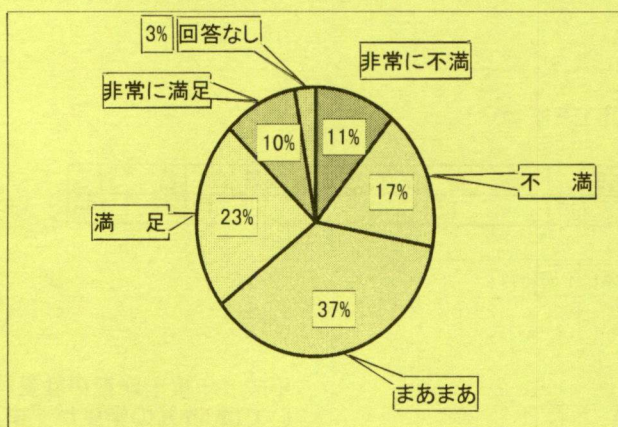
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	90	123	251	169	88	34	755



おおむねクラス分けに関しての不満感は、他の語学、分野別科目も同様ですが「自然の分野」及び「総合科目」では28%近くの学生諸君から、不満感が表明されています。

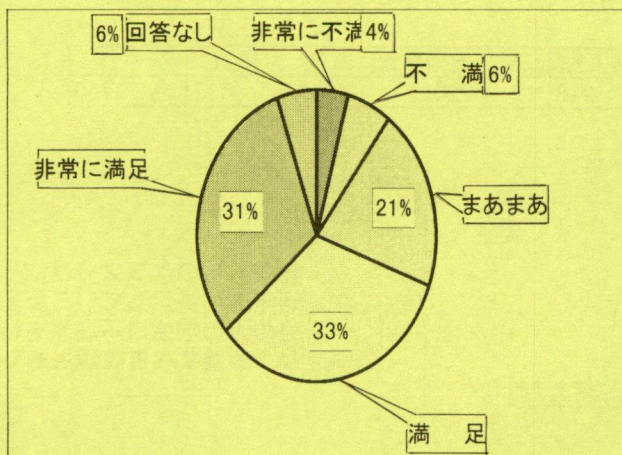
設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(総合科目)

	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	83	128	277	171	73	23	755



設問:教養科目のクラス分けについて満足していますか(健康・スポーツ)

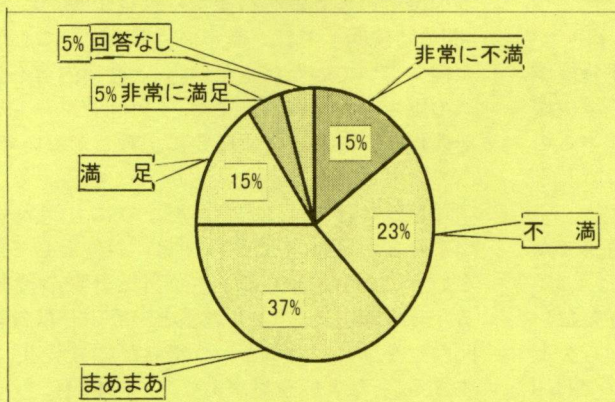
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	33	44	155	249	232	42	755



クラス分けに関してほぼ適切であったのは、「健康・スポーツ」の分野でした。(64%が満足)

設問:教養科目の授業の程度、内容について満足していますか(自然の分野)

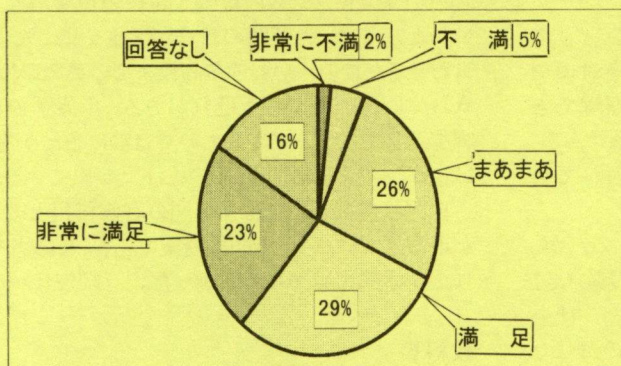
	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	112	174	281	117	36	35	755



教養科目の授業の程度、内容に関する満足感については、不満足がやや多い「自然の分野」から、満足感の高い「健康・スポーツ」まで科目・分野によってかなり違いが認められました。

設問:教養科目の授業の程度、内容について満足していますか(健康・スポーツ)

	非常に不満	不 満	まあまあ	満 足	非常に満足	回答なし	合 計
回答数	14	35	194	220	174	118	755



「教養教育基本調査Ⅰ」の「自由記述」から

7月に、主として1年次学生諸君に回答いただいた「教養教育基本調査Ⅰ」の「自由記述」は、本学におけるの今後の教育のあり方を探るに当たってきわめて示唆に富んだ内容になっています。教職員各位には今年度中にその全体を見ていただく予定になっていますが、ここに自由記述の一部を要約掲載して参考に供するとともに、学生諸君にはこれをもって報告にかえたいと思います。

「自由記述」されている内容を大別すると、

1. 教養科目教育のシステム
2. 教養科目の選択
3. 授業方法・内容

などに集約されます。

第1の項目では、教養教育廃止論から昼休みが短すぎるという意見まで多様な意見が展開されています。第2の項目では、全教養科目についてのもって自由な選択をと希望する声が圧倒的に多く、そのために授業本数を増加せよ、受講者が集中する授業は複数本たてよなどという要求が出ています。

ここでは第3の項目「授業方法・内容」について学生諸

君の声を整理して「」内に記述しました。とくに後学期授業を担当される教官各位および企画室・センター構成員などにはご一読願ひ授業実施の際にご注意していただきたいと思います。学生諸君は自分の回答趣旨が記述されているか、点検ください。

他の項目についての取りまとめは別の機会にしたいと思います。

授業中の表現方法

「声が小さくて聞こえない。」という意見が圧倒的に多い。中には「一番前に座っても聞こえない」との訴えもある。マイクを使用してほしいというのだ。「マイクの故障を直してほしい。」というのは教官と事務との連絡不足か。

「黒板に書く字が小さくて読めない。」「板書が汚くてノートできない。きちんと整理して書いてほしい。」「常用漢字を使え。」「字が汚い。」など板書のまずさを指摘する意見も多い。

また、「先生たちの話し方が非常に下手である。」「話し方が下手でなにを言っているか分からない。」「語尾が曖昧で聞き取れない。」など先生の話法の下手さをついた批判もあ

る。一方、ビデオなど視聴覚教材を使用している授業の不満はまったくなかった。

教官の行動・態度

「先生の遅刻30分は当たり前ですけどそれなら60分授業にした方がよいのではないのでしょうか。」と指摘する学生があり、「遅刻する先生が次の時間まで入り込んで授業するのはやめろ。」「講義は決められた時間内でやってほしい」と願う学生もいる。

「自分勝手な先生がいて」授業の後2、3日不愉快でたまらないという嘆きは悲惨だ。

「(学生を)まったく馬鹿にしている。」「学生の方をむいて話せ。」「やる気のない教官がいる。」「カリキュラムをどうのこうのよりも、教える側の意識の改革が必要なのでは。」など指摘は厳しい。「分からないところは質問せよというから質問したら、そんなことも分からないのか、バカ。」にいたっては…

授業のあり方

「参加できる授業にしてほしい。」「ただ教官がひとりでしゃべっているだけとか、板書するだけの授業は絶対にやめてほしい。」「一方的にやられるだけでまったく理解できない。」など学生参加型の授業形態を望む声は多い。

現在のような授業なら、「眠いから途中で雑談を入れて目を覚ましてほしい。」ということになる。

願いとして、「もっと、楽しく授業をしてほしい。」のだが、そのための具体的提案も多い、「もっとビジュアルな授業(C.G.を使ったり、実験を見せたりする)をしてほしい。」「社会の授業、もっと生活に密着した、興味深い内容のものになりませんか。」「もっと新しいことを教えて欲しい。」「もっとビデオ学習を増やしたり、実験的な要素を増やしたり」「プリントを使用するか、黒板を書くようにして」など。

出席

「全授業で出欠をとるべきだ。」という意見が多い。がしかし、中には「出席重視といって出席をとらない先生がいる。」との批判もある。出席をとって、出席率の高い学生は成績に差をつけてほしいといった意見がある。出席をとるなという意見は皆無だった。

授業内容

「講義概要と違う内容の授業があった。」と講義概要と実際の授業との乖離を指摘する意見が多い。それにもまして「開講時説明」ではシラバスになっていない。「講義概要は、全授業書いていただきたい。」と授業内容を記載しない教官への風当たりは強い。また、「毎回レポートを出す授業なら、その点をきちんと講義概要に記載しておいてほしい。」というのはもっともである。

「自然などでは、内容があまりにも深入りしすぎて逆につまらなかった。」というのは「教養としては難しかった。」ということか。多くの学生が自然分野の授業に絶望している。その理由として、「教養というよりは各教官が自分の専門だけを話しているという感じだ。」「先生による差がありすぎる。」などの意見があり、「全体的にもっとわかりやすくしてください。」ということになる。

総合科目では「先生がいろいろ変わったので内容がわかりにくい。」との意見が多い。

外国語では「声に出すこと(読み、会話)を重視してほしい。」「ガイダンスの時に『高校の授業みたいなものはしない』と言っていた英語の教官が学生を指して読ませ、意味を言わせるだけの、いわゆる高校までの英語の授業をしているのはおかしい。」といった批判がある。「英語のくわしい授業内容を示してほしい。TRだけではなにをどう読むのか分からない。」などと授業概要について注文が出ている。

専門基礎については「専門の必修科目と教養科目の時間帯が重複している」「専門の授業でも、未修者を前提としており、全体的にレベルが低かった。」などといった意見がある。

教科書

教科書については「テキストが適切でない。」「教科書代がかかりすぎる。」「1回リポートを書くためだけの教科書なら図書館に置け。」「英語のテキストをもっとわかりやすいもの、興味がわくものにしてほしい。」などといった指摘がある。

なお、個々の授業についての意見も一部寄せられました。が、ここには収録していません。

(谷 口)

つ ぶ や き

後学期開始にあわせてローザ・ブルムラ第2号をお届けします。今号では、前期授業についての学生諸氏の声を掲載いたしました。前号にはクリーム色の紙を使用しましたが、本誌のタイトル Rosa Plumula (薔薇の若芽)をイメージして今号から「もえぎ色」にいたしました。誌面の都合で「つぶやく」スペースがもうありませんので、これで黙ります。(H.O.)

発 行 日 平成8年10月
 発 行 者 茨城大学
 大学教育研究開発センター
 水戸市文京2-1-1
 029(228)8416〔企画室教養教育第二係〕